

# じん芥処理施設



建物は地下3階、地上10階。ごみの焼却で生じる熱エネルギーを発電利用する「高効率ごみ発電施設」と、粗大ごみや不燃ごみを破碎・分別処理をする「マテリアルリサイクル施設」からなるじん芥処理施設は、高座クリーンセンターのメイン施設です。接続する環境プラザ(6頁)から入る見学ルートがあり、実際に稼働するごみ処理の工程を見ることが出来ます。単なるごみ処理施設としてだけではなく、施設のはたらきを知る場を提供することから環境理解への発展も目指します。煙突部分には展望室を設置し、周辺環境に配慮した外観も特徴です。



【煙突と展望室】  
排ガスは有害物質を除去して放出。展望室は地上約50m、じん芥処理施設10階に位置する

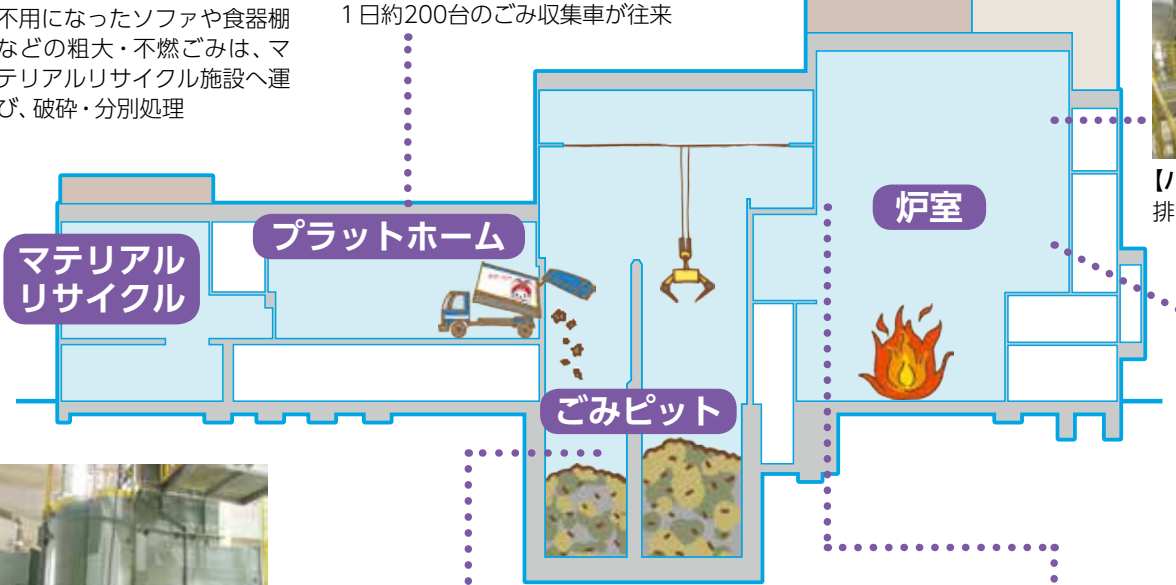


## じん芥処理施設断面図



自動で開閉する扉からごみピットにごみを投入

【プラットフォーム(3階)】  
1日約200台のごみ収集車が往来



【ハイブリッドバグフィルタ】  
排ガスをろ過してきれいに



【タービン発電機】



【中央制御室(5階)】  
炉の状態などを24時間監視

不用になったソファや食器棚などの粗大・不燃ごみは、マテリアルリサイクル施設へ運び、破碎・分別処理

【高速回転破碎機】  
粗大ごみや金属類を高速で破碎



【アルミ選別機】  
磁力でアルミ類を分別



【ごみピット】ごみ収集車からのごみを直接受けるごみピット。貯留量は約9日分で従来の約4倍



【ごみクレーン】  
1回で1.5~2tのごみをつかむ

粗大ごみや不燃ごみを破碎し、分別処理をする施設です。細かく破碎すると組成ごとの選別がしやすいことから、高速回転破碎機を導入。磁力で鉄類のみの分別ができる磁選機に加え、リニューアルを機に渦電流と磁界相互作用を利用しアルミ類を分別できるアルミ選別機も導入しました。

## 粗大・不燃ごみなどを処理 マテリアル リサイクル施設

のシートシャッターは車両を感知すると自動で開き、エアカーテンが作動します。内部のごみ投入口の扉も自動開閉。臭気を外部に漏らさない工夫をしています。ごみピットに集められたごみはごみクレーンでつかみ、炉に投入しながら燃やします。炉の運転状態は、5階の中央制御室で監視します。焼却後の排ガスは、ダイオキシン類などの有害物質を効率的に除去するハイブリッドバグフィルタを通し、誘引送風機などを経て煙突から大気中に放出される仕組みです。また、従来のような「ごみ処理施設」煙突がある風景という景観上のイメージにも配慮し、煙突部分を展望室として整備することで、「ごみ処理施設」を意識させない外観づくりを目指しました。

## 可燃ごみなどを処理 高効率ごみ発電施設

ごみを焼却した時に発生する排ガスの熱エネルギーを蒸気で回収し、発電する設備を取り入れた施設です。新しい2基の炉で処理できるごみの容量は1日245t。1時間あたり約10・2tのごみを燃やします。焼却温度は850~1000度。焼却した熱はボイラで回収した後、タービン発電機で電力に変換します。最大発電量は4870kwで、施設の運転をはじめ隣接する屋内温水プールなどに利用し、余った電力は売却します。また、焼却で出た灰は路盤材などにリサイクルします。それぞれの市から集められたごみはごみ収集車ごとに計量し、ごみを貯留するごみピットを目標して3階のプラットフォームへ。出入り口

